



令和 8 年（2026 年）4 月 7 日 公表  
 令和 7 年版 山口県日本海側重要魚種の資源評価

ウマヅラハギ（日本海・東シナ海系群）

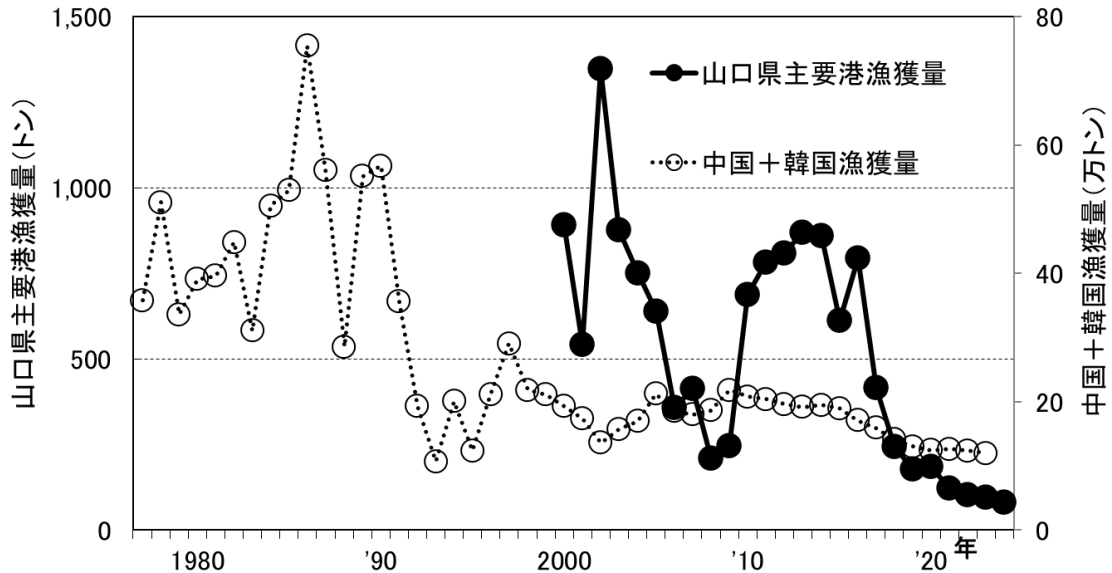


図 山口県主要港及び中国+韓国のかわはぎ類（主体はウマヅラハギ）漁獲量（（国研）水産研究・教育機構資源評価報告書）の推移

【漁業】ウマヅラハギは山口県では主に沖合底びき網で春及び秋を主漁期として漁獲される。沿岸域では定置網、すくい網、小型底びき網などで主に冬～春に漁獲される。

【漁獲量】山口県日本海沿岸の主要港の漁獲量は、2000 年以降では 2002 年の 1,346 トンを最高として、その後減少し、2008 年及び 2009 年には 200 トン台となった。2010 年～2016 年には 600～800 トン台に増加したものの、2017 年以降減少傾向が続き、2024 年の漁獲量は 80 トンであった。

【資源状態】本系群は主に中国及び韓国により漁獲されているので、両国の合計漁獲量から資源水準を評価した。両国の合計漁獲量は 1992 年以降 11 万～29 万トンと低水準で推移していることから、資源水準は低位と判断された。また、各県漁獲量と石川県定置網、日本海南西部と東シナ海の底びき網の CPUE をもとに算出した資源量指標値の直近 5 年間（2020～2024 年）の変動から、資源動向は減少と判断された。

資源の水準・動向		2024 年漁獲量 (トン)	2026 年 ABCtarget (トン)	2026 年 ABClimit (トン)
水準	動向			
低位	減少	1,022	700	800